

2025年度 町田市立小山田南小学校 学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和6年3月31日

学校教育目標 たおやかに・かしこく・たくましく				学校経営の重点 確かな学力の向上・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成・豊かな心の育成			
○目指す学校像・・・・・・挑戦することを通して子供の自己肯定感を養う学校 ○目指す児童・生徒像・・・・常に挑戦する気持ちをもち続けられる児童 ○目指す教師像・・・・確かな指導力と、児童に寄り添う思いやりのある教師				重点目標の成果と課題			

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用するとともに、地域教育を活用し、地域の中に生きる自分を児童に気づかせ、活動をさせる。	4.年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 3.年間の計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2.年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1.年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満			A.学校評価アンケート「A」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「A」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「A」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「A」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満						
			コミュニティスクールを通じて、地区委員会及び保護者、おやしの会などに本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。	4.必要情報の90%以上を周知・意見交換 3.必要情報の80%以上を周知・意見交換 2.必要情報の70%以上を周知・意見交換 1.必要情報の70%未満を周知・意見交換			A.学校評価アンケート「A」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「A」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「A」②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「A」②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満						
		学校ホームページや学校行事を通して、積極的に情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。	学校ホームページの更新や学校だよりで保護者が我が子の学びについて知り、安心して通学させる情報を発信する。	4.週4回以上の更新 3.週3回以上の更新 2.週2回以上の更新 1.週1回以上の更新			A.学校評価アンケート「A」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「A」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「A」③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「A」③「情報発信」肯定的評価 55%未満						
			児童と児童の対話などのつながりを念頭に置きつつ、保護者の気持ちに寄り添い、学校行事などをはじめて、学校ならではの多様な教育活動を積極的に公開する。	4.90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3.80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2.70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1.公開に努めたクラスが70%未満だった			A.学校評価アンケート「A」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「A」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「A」④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「A」④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満						
確かな学力の育成	授業改革を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	徹底的な反復学習を実施して基礎学力を身に付けたら、自ら学習計画をたてて主体的に取り組む力を身に付けさせたりする。	朝モジュールの時間に漢字や基礎的な計算の徹底反復学習を実施する。また、その結果を記録することで成長を実感させる。	4.90%以上の授業で実施 3.80%以上の授業で実施 2.70%以上の授業で実施 1.70%未満の授業で実施			A.学校評価アンケート「B」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「B」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「B」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「B」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%未満						
			自由進度学習を取り入れて、児童が計画的・主体的に学習に取り組めるようにする。	4.可能な教科の90%以上の授業で実施 3.可能な教科の80%以上の授業で実施 2.可能な教科の70%以上の授業で実施 1.可能な教科の70%未満の授業で実施			A.児童アンケートで80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 B.児童アンケートで70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 C.児童アンケートで55%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 D.児童アンケートで55%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言						
		主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、子供が読さう授業の確立を目指す。	インクルーシブ教育を軸にした、面々のつまずきを取り除くよう特別支援教育コーディネーターの専門知識を全教員で共有し、個に応じた指導の充実を図り、知識・技能を定着させる。	4.全ての基礎的授業で取組んだ 3.90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2.80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1.80%未満の教育活動で意識して取組んだ			A.学校評価アンケート「B」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「B」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「B」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「B」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%未満						
			STEAM教育・キャリア教育など、対話を中心に自分の考えを表現させることをはじめ、多様な方法で表現させ、協働的な学びを授業で展開する。（アクティブ・ラーニング）。	4.100%以上の授業で実施 3.90%以上の授業で実施 2.80%以上の授業で実施 1.80%未満の授業で実施			A.生徒アンケートで80%以上が肯定的な回答 B.生徒アンケートで70%以上が肯定的な回答 C.生徒アンケートで55%以上が肯定的な回答 D.生徒アンケートで肯定的な回答が55%未満						
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	道徳の授業を中心に、生命を大切にすることや他人を思いやる心、規範意識など道徳の実践力を育む。	学年及び学級において、人権を相互に尊重する指導を徹底し、いじめを許さない態度の涵養と、絶対に見逃さない生活指導をする。	4.いじめ防止に関する授業を月に1回以上指導実施 3.いじめ防止に関する授業を学期に2回以上指導実施 2.いじめ防止に関する授業を学期に1回以上指導実施 1.いじめ防止に関する授業を2回以上実施			A.生徒アンケートで、肯定的評価 80%以上 B.生徒アンケートで、肯定的評価 70%以上 C.生徒アンケートで、肯定的評価 55%以上 D.生徒アンケートで、肯定的評価 55%未満						
			道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設け、道徳の実践力を育てる。また、実践の場を計画的・意図的に設け、い。	4.すべての道徳授業で指導実施 3.90%以上の道徳授業で指導実施 2.80%以上の道徳授業で指導実施 1.80%未満の道徳授業で指導実施			A.学校評価アンケート「C」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「C」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「C」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「C」②③「規範意識や挨拶」肯定的評価 55%未満						
		児童の自己有用感及び自己肯定感を高め、人との関わりを通して自分を大切にするとともに友達及び異学年の児童を敬い慈しむ態度を養う。	異学年交流活動、委員会活動、クラブ活動、実行委員、係活動などを通して、児童の自治的な活動を推進する。	4.指導場面の90%以上で実施 3.指導場面の80%以上で実施 2.指導場面の70%以上で実施 1.指導場面の70%未満で実施			A.GU、もしくは、児童アンケートでの満足評価 80%以上 B.GU、もしくは、児童アンケートでの満足評価 70%以上 C.GU、もしくは、児童アンケートでの満足評価 55%以上 D.GU、もしくは、児童アンケートでの満足評価 55%未満						
			交通安全防止や不審者対応に対する安全意識の醸成を図るとともに、ネットマナーなどの育成を計画的に行う。	4.安全教育に関する授業で月に1回以上指導実施 3.安全教育に関する授業で学期に2回以上指導実施 2.安全教育に関する授業で学期に1回以上指導実施 1.安全教育に関する授業で年に2回以上実施			A.学校評価アンケート「C」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「C」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「C」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「C」④⑤「安全意識・ネットマナー」肯定的評価 55%未満						
健全な心身の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上及び望ましい生活習慣の定着を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業を充実させ、長年わ通間、持久走月間など体力向上活動を実施するとともに、休み時間の外遊びを推奨するなど運動の日常化を図る。	4.90%以上の児童が日常的に運動をする 3.80%以上の児童が日常的に運動をする 2.70%以上の児童が日常的に運動をする 1.70%未満の児童が日常的に運動をする			A.80%以上の児童が健康項目で体力が向上 B.70%以上の児童が健康項目で体力が向上 C.55%以上の児童が健康項目で体力が向上 D.55%未満の児童が健康項目で体力が向上						
			望ましい生活リズムの定着を図るべく、運動・睡眠・食事を関連付けて指導し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。	4.全ての児童が望ましい生活習慣を身に付ける 3.80%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付ける 2.80%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付ける 1.80%未満の児童が望ましい生活習慣を身に付ける			A.学校評価アンケート「E」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満 B.学校評価アンケート「E」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「E」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「E」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満						
		安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する。	オリンピックレガシー教育計画に基づき、特別支援学級児童との交流及び校外学習などの共生の精神を育むよう体験的な学びを全校で実施する。	4.全ての学級で実施 3.70%以上の学級で実施 2.70%以上の学級で実施 1.70%未満の学級で実施			A.学校評価アンケート「E」③「通んで運動」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート「E」③「通んで運動」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「E」③「通んで運動」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「E」③「通んで運動」肯定的評価 55%未満						
			週一回の生活指導委員会において、危機管理情報を共有し、必要に応じて専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。	4.90%以上の安全指導の場面で実施 3.80%以上の安全指導の場面で実施 2.70%以上の安全指導の場面で実施 1.70%未満の安全指導の場面で実施			A.学校評価アンケート「E」④「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満 B.学校評価アンケート「E」④「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート「E」④「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート「E」④「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満						
その他			※ 必要があれば、学校の独自項目を設定										

取組指標例はこれまでにご提出いただいた学校の計画から抽出させていただきました。例を参考にいただき、各学校で学校独自の指標をご記入ください。評価基準は、個人ごとに評価する場合と管理職や組織として評価する場合がありますが、具体的方策の内容に合わせてご設定ください。

取組指標の評価基準例（結果数値からABCD評価へ）
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C
取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D

成果指標評価基準例
成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A
成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B
成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C
成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D

学校関係者評価の評価基準例
A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。